



学校や園で過ごすみんなと保護者の方に知ってほしい



かんせんよぼう きほん
感染予防4つの基本

新学年を迎えるにあたって、あらためてみなさんに大切な感染対策について知ってほしいと思い、作成しました。こどもたちや若いみんなの間で、まだまだ新型コロナウイルスが流行しています。新学年も学校や園で元気に過ごせるように、4つの基本に気をつけてください。



1. いつも手をきれいに洗いましょう

ウイルスやばいきんは手を介して周りに広がります。私たちは汚れた手で気づかぬうちに顔を触っています。目、口、鼻からウイルスやばいきんが体の中に入り、感染が始まります。外から帰ってきたとき、食事の前、トイレの後など、手をきれいに洗いましょう。



2. 学校や園ではマスクをつけよう

マスクはコロナウイルス感染症を予防するのに、とても効果があります。屋内ではマスクをつけましょう。運動するときや校庭での活動のときは、マスクをはずしても OK です。食事などマスクをつけられないときは、他の人と距離をとって、お話は控えめにしましょう。



3. 部屋を換気しよう

人が集まる場所は風通しをよくしましょう。たとえば、教室は休み時間ごとに5分程度、ろうかどベランダ側の両方の窓を開けましょう。換気のための扇風機は、風が教室の中から外に向かうように使いましょう。



4. かぜをひいたかな？と思ったら学校は休もう

おうちで毎日体温を測りましょう。熱がなくても、いつもと違う症状(のどの痛み、咳、だるさなど)がある場合は、学校は休んで、お家でゆっくり過ごしましょう。周りの人に感染症を拡げないために、とても大切なことです。

沖縄県教育委員会・沖縄県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議・沖縄県医師会



学校の先生方、保護者の方々の参考になればと思い、学校での感染対策についての Q&A をまとめました。

―― Q 朝の校門での検温は必要ですか？

A 体調を確認し症状があるなら登校・外出しない、というのが大切な感染対策の原則です。従って検温は校門で行うのではなく、各家庭で行ってきてもらいましょう。できる場合は、こどもたち自身で検温するのが望ましいです。感染対策が「大人から押し付けられるもの」ではなく、「自分自身を守るための手段」であるという主体的な考え方にもつながっていくと思います。



―― Q 教室にデスクシールドは必要ですか？

A デスクシールドは飛沫感染を予防するものですが、むしろ換気が悪くなり、教室では発症者が増えた、という研究結果もあります。皆がマスクを着用している状況では飛沫感染対策はとられており、デスクシールドは不要です。ただし、マスクを着用せずに話をする、近接して食事をしながら会話する場合などは、デスクシールドの意義はあります。状況に応じて付け外しを検討してください。

―― Q 放課後の消毒作業(教室の机、廊下の手すり、トイレなど)は必要ですか？

A ウイルスはそもそも時間とともに不活化していくため、放課後に消毒することでの追加効果は僅かです。また環境表面からの感染リスクは飛沫感染などと比較して低いです。普段の清掃をきちんと行っていれば、特別な消毒作業は不要です。

―― Q 部活動の練習にあたっての対策はどうすればよいですか？

A もっとも大切なことは、症状のある人が練習を休むことです。また練習以外の場面、更衣室でのおしゃべりやミーティング、練習後に個人の家に集まって談笑したり、ゲームをしたりということのほうが、リスクが高いです。地域流行の規模が大きくなり、学校内でも感染者が増え始めているような状況では、部活動の休止も検討してください。多人数が集まるような対外試合は、事前に参加者の検査陰性を確認するか、地域流行が収まるまで延期することをお勧めします。

―― Q どのような状況であってもマスクを着用すべきですか？

A マスクを着用することで、新型コロナウイルスの感染が予防できることは、多くの研究によって科学的な根拠が示されています。ほとんどの場合、マスクは安全に使用することができます。ただし、激しい運動では呼吸やガス交換に影響するため、運動時のマスク着用は勧められません。また、登下校時など野外では、友人と連れ立って帰るときなどを除いてマスク着用は不要です。アレルギーがあつたり、不快感が強いなど、マスクを着用することができないのに着用を強制することのないようにしてください。周囲がマスクを着用することにより、その人を守ることができます。

―― Q いまの対策は、いつまで続けなければならないのでしょうか？

A いつも微生物は私たちの裏をかくようにして、勢力を盛り返してきます。決して侮ることなく、それぞれに対策を進めていくことが必要です。自然災害や気候変動など、自然は私たち人類に制限を加えてくるものです。しかし、それを乗り越えることで人類社会は発展してきました。コロナが消え去ることを祈るよりは、乗り越える未来を創りたいと思います。

